

102-236

問題文

予防接種法に基づく定期の予防接種に関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 高齢者の肺炎球菌感染症は予防接種法におけるB類疾病に含まれ、65歳以上になると、肺炎球菌ワクチンは毎年度1回ずつ接種することができる。
2. ポリオ(急性灰白髄炎)のワクチンは、ジフテリア、百日咳、破傷風のワクチンとともに、4種混合ワクチンとして接種される。
3. 麻しん・風しん混合ワクチンは、免疫効果が強い生ワクチンなので、生後12～24ヶ月の間に1回のみ接種される。
4. 水痘は予防接種法におけるA類疾病に分類され、そのワクチンとしては弱毒生ワクチンが用いられる。
5. インフルエンザ菌b型(Hib)に対するワクチンは、インフルエンザウイルスに対しても効果を示す。

解答

問236：1, 4問237：2, 4

解説

問236

生ワクチンは、生きた菌やウイルスの毒性を弱めたものです。不活化ワクチンは、菌やウイルスを殺した上で免疫に必要な成分を取り出したものです。

選択肢 1 は、正しい記述です。

接種部位の局所反応が出た時に、重ならないように、穿刺部位を離して注射します。

選択肢 2 ですが

原則 生ワクチンは4週間開けて、不活化ワクチンは1週間開ける。同一ワクチンの複数回摂取についてはそれぞれのワクチン毎に違うことがある となっています。「不活化ワクチン」と「生ワクチン」が逆です。よって、選択肢 2 は誤りです。

※ 補足。同時接種について。

ワクチンの「同時接種」はOKです。複数摂取によりそれぞれのワクチンの効果は減弱しないし副作用の頻度は上がらない とされています。つまり、1回のワクチン接種では何種類同時にやってもよく、その中に生ワクチンが入っていれば次の予防接種は4週間あける。不活化ワクチンのみの予防接種であれば次の予防接種は1週間あける。というスケジュールをとります。

ワクチンの接種すべき時期があるので、あらゆるワクチンを一度に接種することはできないのですが、同時期に接種すべきワクチンについては忘れずに、かつできるだけ早くに免疫を獲得するために同時接種が行われています。※ 補足 終わり。

選択肢 3 ですが

有効期間とは、ワクチンによる免疫が有効である期間です。一般的に生ワクチンの方が長いです。不活化ワクチンにも、有効期間はあります。よって、選択肢 3 は誤りです。

選択肢 4 は、正しい記述です。

以上より、正解は 1,4 です。

問237

選択肢 1 ですが

予防接種法に基づく A 類疾病とは、集団感染を予防するために予防接種を行う疾病のことです。一方、B 類疾病とは、個人感染を予防するために予防接種を行う疾病のことです。高齢者の肺炎球菌感染症はB 類疾病に含まれます。5年ごとに接種対象となります。「毎年1回ずつ」では、ありません。よって、選択肢 1 は誤りです。

選択肢 2 は、正しい記述です。

選択肢 3 ですが

麻しん・風しん混合ワクチン（MR）は生ワクチンです。1歳の誕生日 及び 小学校就学前の1年間に2回接種します。「1回のみ」では、ありません。よって、選択肢 3 は誤りです。

選択肢 4 は、正しい記述です。

選択肢 5 ですが

インフルエンザ菌とウイルスは別ものです。よって、選択肢 5 は誤りです。

以上より、正解は 2,4 です。